

安全上のご注意

・据え付け前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、据え付けてください。
・ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

表示を無視して、誤った取り扱いをすることによって生ずる内容を次のように区分しています。

警告

「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。

注意

「軽傷を負う、または財産に損害を受けるおそれがある」内容です。

禁止

してはいけない「禁止」内容です。

強制

必ずしなければならない「強制」内容です。

据え付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、この工事説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

警告

- 据え付け・移設・廃棄は、お買いあげの販売店、または専門業者に依頼し、工事には必ず当社付属部品及び指定の部品を使用して確実に行う。
据え付け工事は、この工事説明書に従って確実に行う。
(室内機・室外機の落下や水漏れ、火災、感電の原因)
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
(強度不足や取り付けが不完全な場合は、室内機・室外機の落下によりケガの原因)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、及び工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
(電源回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因)
- 漏電しゃ断器を取り付ける。
(漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電、火災の原因)
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
(ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因。
コンセントにがたつきがある場合は、交換してください)

警告

- 据え付け作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をする。
工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
(冷媒ガスが漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因)
- 室内外ユニット間配線は、途中接続やより線の使用をせず、所定のケーブルを使用し、端子板へ確実に接続する。
(接続や固定が不完全な場合は、故障や発熱、火災の原因)
- 室内外ユニット間配線は、端子板カバ―(コードクランプ・コード押さえを含む)が浮きあがらないように整形し、カバ―を確実に取り付ける。
(カバ―の取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因)
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
(R22用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
(フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)

警告

- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。
(冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
(圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)

禁止

- 室外機は、ベランダの手すり近くに設置しない。
(お子様か室外機の上に登り、手すりを乗り越え、落下事故につながるおそれ)
- 電源コードの加工、途中接続、タコ足配線、ステップ等での固定はしない。
(接触不良・絶縁不良・許容電流オーバー等により、火災、感電の原因)
- 指定冷媒(R410A)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない。
(機器の故障や破裂、ケガ等の原因)
- 冷凍サイクル内に空気等を混入させない。
(空気等が混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破壊、ケガ等の原因)

強制

- アース(接地)を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。
(アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因)

注意

- ドレン工事は、工事説明書に従って確実に排水するよう配管する。
(不確実な場合は、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因)
- 内装工事や床面のワックスかけ時は、運転を停止し作業後は換気する。
(揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや露飛びの原因)

禁止

- 室外機の吸込口やアルミフィンにさわらない。
(ケガの原因)
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へは設置しない。
(万一、可燃性ガスが漏れて室内機・室外機の周囲に溜ると、発火の原因)

禁止

- 室外機は、小動物のすみかになるような場所には 設置しない。
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。)

動作確認のお願い

据付け後、下記順序で必ず動作確認をしてください。

1. 試運転をする。「13. 試運転」参照

必ず気流パネルを取り付けて試運転を行ってください。
気流パネルを取り付けていないと正しい確認ができません。

2. 「フィルター掃除手動運転」で動作確認をする。

① エアコン停止中に、リモコンの「フィルター掃除」ボタンを押す。
・本体表示部の「おそうじランプ(緑)」が点灯します。

② 約5分後、エラー表示(本体表示部の運転ランプ(赤)、タイマーランプ(橙)、おそうじランプ(緑)が同時に点滅)が出ないことを確認し、リモコンの「停止」ボタンを押す。
《エラー表示が出た場合》
エアーフィルターが正しく入っているか確認してください。
(詳細は、取扱説明書の「よくあるご質問」のページを参照)

知っておいいただきたいこと

- ・フィルター掃除のため、換気ホースの取り付けが必要です。ただし、換気機能はありません。
(最長5.5mまで可能。ただし、2.8m以上は別売の延長換気ホース(AZ-TDA50)が必要です。)
換気ホースを取り付けないと、エアコンは正常に運転できません。
- ・配管穴はφ60mm以上あれば、取り付け可能です。
配管穴を新しくあける場合は、φ70mm以上の穴をあけると、工事が更に容易に行えます。
- ・換気ホースの左右の付け替えはできません。
- ・ドレン排水の確認時は、必ず付属の給水用キャップ 10 をご使用ください。
- ・隠ぺい配管は下記内容を、お客様にご理解いただいたうえで行ってください。
 - ・別売の「隠蔽配管用ダストボックス」(形名：AZ-UDBW)の設置が必要です。取付け時はAZ-UDBWに同梱の説明書ではなく、この工事説明書と一緒に同梱されている別紙・《別売品》隠蔽配管用ダストボックス(AZ-UDBW) 取扱説明書 を参照の上、取付け工事を行ってください。
また、「隠蔽配管用ダストボックス」にたまったホコリを定期的に捨てる必要があります。(同梱の取扱説明書参照)

付 属 品

室内機用

1 据付板	2 取付ネジ(据付板用) (長さ25mm)	3 本体固定ネジ (長さ12mm、ワッシャ付き)	4 リモコン	5 リモコンホルダー
6 リモコンホルダー取付ネジ (黒色)	7 乾電池 (単4形)	8 端子板カバ―	9 給水用キャップ	
1枚	7本	2本	1個	1個
2本	2本	1個	1個	

フィルター掃除用付属品

10 換気ホース(長さ2.8m) (内径φ25mm、外径φ29mm) ※必要な長さにカットできます。	11 虫よけキャップ A (コーテブ仕上げ用)	12 虫よけキャップ B (化粧カバー仕上げ用)
1本	1個	1個

室外機用 (室外機側に同梱)

13 ドレン口	14 ドレンうけ
1個	1個
または	ドレンエルボ
	1個

据 付 図

室内機

リモコンホルダー 5

リモコンホルダー取付ネジ 6

据付板 1

取付ネジ 2

5cm以上 (天井との間隔)

5cm以上 (本体と左壁の間隔)

本体固定ネジ 3

保護パイプ(硬質塩ビパイプ)

5cm以上 (本体と右壁の間隔)

7cm以上 (本体底面との間隔)

据付板へ室内機をネジで固定する場合

気流パネル

(本体固定ネジ 3で、室内機を据付板にネジ止めするために、空間を確保してください。)

7cm以上

9cm以上

7cm以上 (パネルの可動範囲)

室外機

10cm以上 (吸込側)

20cm以上 (吹出側)

5cm以上 (吸込側)

電源について

コンセントに差し込む前に、電圧をテスターで確認してください。電圧が違うと故障の原因になります。

電源方式	コンセント定格・形状
単相100V	125V 15A ㊶
	125V 20A ㊷
単相200V	250V 15A ㊸
	250V 20A ㊹

・電源は必ず専用回路を使用してください。

電源コードの長さ

電源方式	左出し	右出し
単相100V	㊶ 1.1m	1.8m
	㊷ 0.8m	1.5m
単相200V	㊸ 0.8m	1.5m

冷媒配管について

最大許容値	配管長さ	配管高低差
	15m※	10m

※冷媒配管が10mを超える場合、20g/mの冷媒補充が必要です。冷媒充填は、必ず、液相側から行ってください。

・室外機が室内機より上にあるときは、室内引き込み口にトラップを設けてください。(雨水の浸入を防ぐため)

室外機固定用ねじ穴寸法

単位：mm

	A	B
22/25/28クラス	500	299
40クラス	550	321
56クラス	540	365

据 付 場 所 の 選 定

下記の項目に注意して、お客様の同意を得て据え付けてください。

室内機

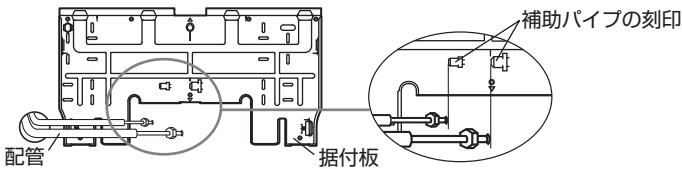
- ・吹出口付近に障害物がなく、部屋全体に風がゆきわたるところ。
- ・ドレン排水が容易で、配管穴が容易にあげられるところ。
- ・本体の左右及び上下に据付図の↔印のスペースが確保できるところ。
- ・エアーフィルターの取り出せるところ。
- ・本体及びリモコンからテレビ、ラジオ、電波時計等を1m以上離してください。
- ・空気吸込口の周囲には、空気の吸込の妨げになるようなものを置かないでください。
- ・電子式瞬間点灯方式及びラビッドスタート方式の蛍光灯を付けた部屋では、リモコンが正常に動作しないことがあります。
- ・運転音や振動が増大しないようなところをお選びください。
- ・エアコン吹出口と火災警報器を1.5m以上離してください。
- ・部屋の外の温度・湿度が高いとき、冷房運転の際に、断熱材のない壁および天井に発露する場合があります。

室外機

- ・本体を水平に据え付けられ、重量に十分耐えるところ。
- ・本体周囲に据付図の↔印のスペースがとれ、風通しの良いところ。
- ・強い風が直接吹きつけたりしないところ。雨水のかかりにくいところ。
- ・暖房運転時、室外機からドレン水が出て支障のないところ。支障のある場合はドレン工事を行ってください。ただし、寒冷地ではドレン水が凍結するので、ドレン工事は行わないでください。
- ・本体からテレビ、ラジオ、電波時計等を1m以上離してください。
- ・機械油の多いところや、海浜地区等塩分の多いところ、温泉地帯、硫化ガスのあるところ等、特殊な場所で使用すると、故障の原因になることがあります。
- ・道路沿いなどで泥水のかかるところや、いたずらされやすいところには、できる限り据え付けしないでください。
- ・吹出口からの熱風や運転音が、隣家の迷惑にならないような場所をお選びください。
- ・騒音が増大しないように、しっかりした台の上に据え付けてください。
- ・吹出口付近に障害物のないところをお選びください。

壁が石膏ボードの場合、必ず樹脂製のカサ式ボードアンカーをご使用ください。

(2力所)

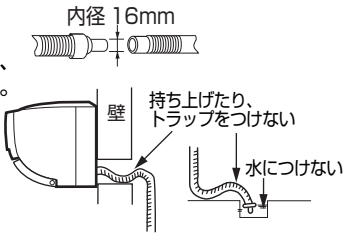


6 ドレン工事

室内機

ドレン工事は、ドレン水が流れやすいように、必ず下り勾配をつけてください。(2°以上)

- ドレンホースを延長する場合は、内径16mmのホースを使用してください。
- ドレンホースが持ち上ったり、トラップをつけたり、ホースの先が水につからないよう注意してください。水漏れ、異音等の原因となります。
- 延長したドレンホースが室内を通るときは、断熱材を巻いてください。



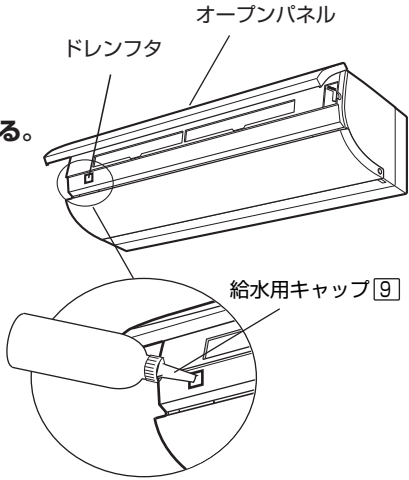
ドレンホースにトラップがあると、高気密住宅などで、強い風をうけた時や換気扇などを使用した場合、「ポコポコ」という音が出ることがあります。トラップの修正をしてください。修正が困難な場合は対応部品として、エアコン用逆流防止弁(市販品)を取り付けてください。

ドレン排水の確認

ドレン工事終了後、ドレン排水の確認をしてください。

- オープンパネルを開ける。(左右側面を持って、手前に引き上げる。)
- 前面パネル左側にあるドレンフタをはずす。(マイナスドライバー等でツメをはずす。)
- 市販の500mlペットボトルに水を入れ、給水用キャップ⑨を取り付ける。(ペットボトルの種類によっては、取付けられない場合があります。)
- 水をゆっくり注入する。
給水用キャップの先端を前面パネルの穴に奥まで差し込み、ゆっくりと注入してください。

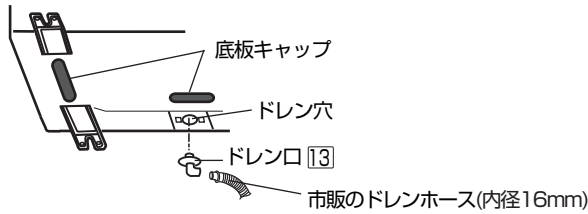
ペットボトルの胴体を強く押すと室内機内部で水が跳ね、水漏れ・故障の原因になります。また、本体からペットボトルをはずす時はペットボトルに残った水がこぼれないようにご注意ください。
- ドレンホースから水が流れていることを確認する。
- ドレンフタを元どおり取り付ける。(確実にツメが入っていることを確認してください。)
- オープンパネルを閉じる。(「カチッ」と音がするまで確実に閉じる。)



室外機

暖房運転時、除霜等により、室外機ドレン穴から水が流れ出ます。排水処理をする場合は、下記のドレン工事を行ってください。

〈ドレン口〉：22～40クラス



〈ドレンうけ+ドレンエルボ〉：56クラス



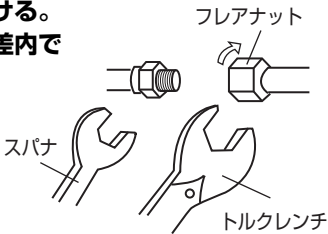
寒冷地でのお願い *寒冷地とは、日中でも外気温0℃以下の日が2～3日連続する地域をいいます。寒冷地では、ドレン水が底板に凍結して、運転に支障をきたすのを防ぐために、
・ドレン工事(ドレン口、ドレンうけ、ドレンエルボの取り付け)は行わないでください。
・底板キャップ(2カ所)を必ず取りはずしてください。
底板キャップの取りはずしは、室外機を据付台へ固定する前に行ってください。

7 配管接続

配管接続

- 接続配管は、「JIS H3300」に定める「リン脱酸銅継目無管(C1220T)」で、配管肉厚は0.8mmのものをご使用ください。
- 配管内への異物（油分、水分等）混入に十分ご注意ください。
- 通常は室内機側、室外機側の順に配管接続してください。

- フレアナットは、最初の3～4回を手で締め付ける。
- トルクレンチを使用し、指定の締め付けトルク値公差内でしっかりと締め付ける。
 - トルクレンチとスパナを用い、2丁スパナ方式で締め付けてください。(締め付け不足、及び締め付け過ぎは、冷媒漏れや変形・破損の原因になります。)



フレアナット締め付けトルク

	ナットの2面幅	適合トルクレンチ
細管側	φ 6.35mm(1/4")	17mm 16±2N・m
太管側	φ 9.52mm(3/8")	22mm 38±4N・m
	φ 12.7mm(1/2")	26mm 55±6N・m

《既設配管再利用時のご注意》

- 配管肉厚は0.8mmが前提条件です。(JIS規格の配管)
- フレアは新冷媒対応に再加工してください。(右記「配管のフレア加工」参照)
- 古いエアコンが故障等により、ポンプダウンができない場合や配管内が極端に汚れている場合は、配管洗浄するか、新しい配管に交換してください。

配管のフレア加工

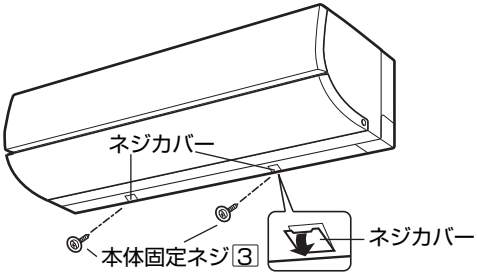
- パイプカッターで配管を切断する。
切断面は直角にしてください。
 - バリ取りをする。
切粉を管内に入れないようにしてください。
 - フレアナットを挿入する。
フレアナットは必ずエアコン本体に使用しているものを使ってください。
 - フレア加工をする。
ダイスからの出し代(A)を正しくセットしてください。
ダイス (A) 従来フレア工具の場合: 1.0～1.5mm
R410A用フレア工具の場合: 0～0.5mm
 - 確認する。
真円で均一にフレア加工されていること。
フレア内部外部共にキズがないこと。
フレアナット挿入忘れはないか。
- フレア加工は、正しく確実に行ってください。不備があると、冷媒ガスが漏れる原因になります。

8 据付板へ室内機をネジで固定する場合

室内機下部を、付属の本体固定ネジ③で、据付板にネジ止めすることができます。

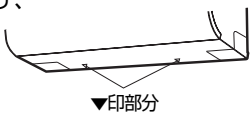
- ネジカバー(2カ所)をマイナスドライバーを使って開ける。
- 室内機下部を付属の本体固定ネジ③で、据付板にネジ止めする。
- ネジカバー(2カ所)を、元どおり閉じる。

据付板と室内機下部の固定には、必ず、付属の本体固定ネジ③(長さ12mm,ワッシャ付き)を使用してください。



室内機を据付板から取りはずすときは

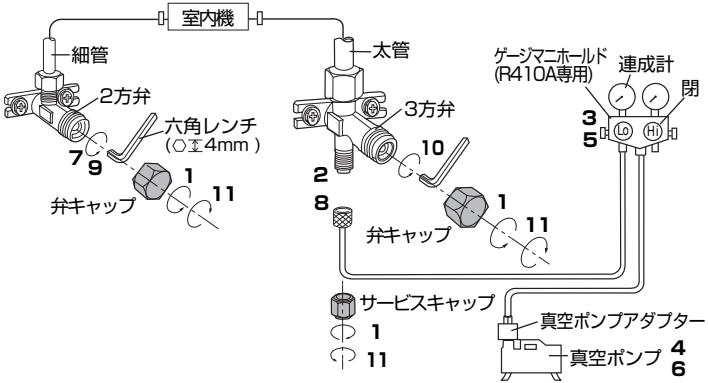
- ネジカバーを開けて、本体固定ネジをはずす。
- 本体底面の▼印部分を(左右2カ所)を押し上げ、ツメを浮かせながら本体を手前に引く。
本体底面のツメが据付板からはずれます。



9 エアパージ

地球環境保護の観点から、エアパージは真空ポンプ方式をお願いします。

- 細管側(2方弁)、太管側(3方弁)の弁キャップとサービスキャップをはずす。
- 3方弁のサービスポートにゲージマニホールドのチャージホースを接続する。
金具のついている側(虫ピンを押す側)を接続してください。
- ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開にする。
- 真空引きを10～15分間行い、連成計が-0.1MPa(-76cmHg)になっていることを確認する。
- ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開にする。
- 真空ポンプを停止する。
1～2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認してください。(接続部の漏れ確認のため)
- 2方弁の弁棒を六角レンチ(4mm)を使って、反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ冷媒漏れの確認をする。※
- サービスポートからゲージマニホールドをはずす。
- 2方弁を全開にする。(当たりがあるところまで回してください。)
- 3方弁を全開にする。(当たりがあるところまで回してください。)
- 2方弁、3方弁の弁キャップとサービスキャップを取り付ける。
トルクレンチを用いて、指定の締め付けトルク値公差内で、しっかりと締め付けてください。



弁キャップ締め付けトルク

	キャップの2面幅	適合トルクレンチ
細管側	φ 6.35mm(1/4")	19 mm 24±3 N・m
太管側	φ 9.52mm(3/8")	19 mm 24±3 N・m
	φ 12.7mm(1/2")	22 mm 31±3 N・m

サービスキャップ締め付けトルク

キャップの2面幅	適合トルクレンチ
17 mm	11±1N・m

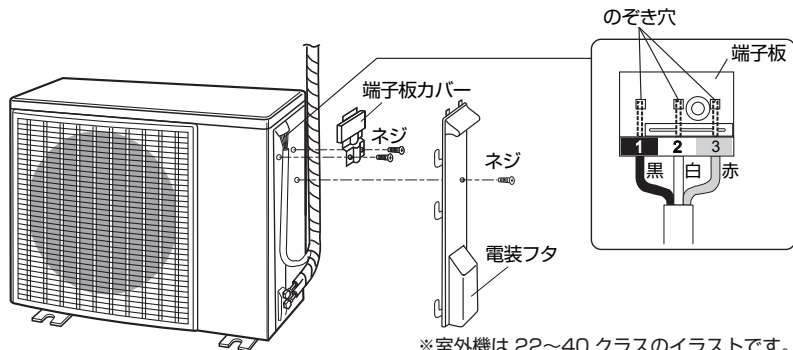
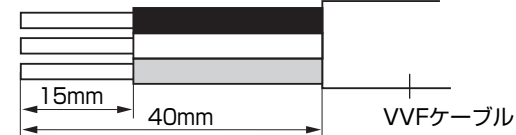
※冷媒漏れ確認は、室内機側はフレア部周辺を、室外機側はフレア部周辺・弁棒周辺を、石けん水を塗布してチェックしてください。チェック後は、ていねいにふき取ってください。
リークディテクターでガス漏れチェックをする場合は高感度のHFC冷媒専用のものを使用してください。

10 室外機のユニット間配線

- ユニット間配線を加工する。
- 電装フタと端子板カバーをはずす。
- ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入する。(のぞき穴から確認してください。)
配線は必ず、室内機の端子板の番号と合わせてください。
- ユニット間配線の外皮を端子板カバーと固定ネジ(2本)で固定する。
- ユニット間配線が確実に固定されているか確認する。
- 端子板カバー、電装フタを取り付ける。

警告
VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。
中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険があります。

実寸(スケールとしてお使いください。)



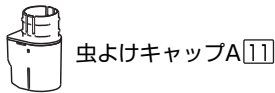
※室外機は22～40クラスのイラストです。

11 フィルター掃除用 換気ホースの先端処理

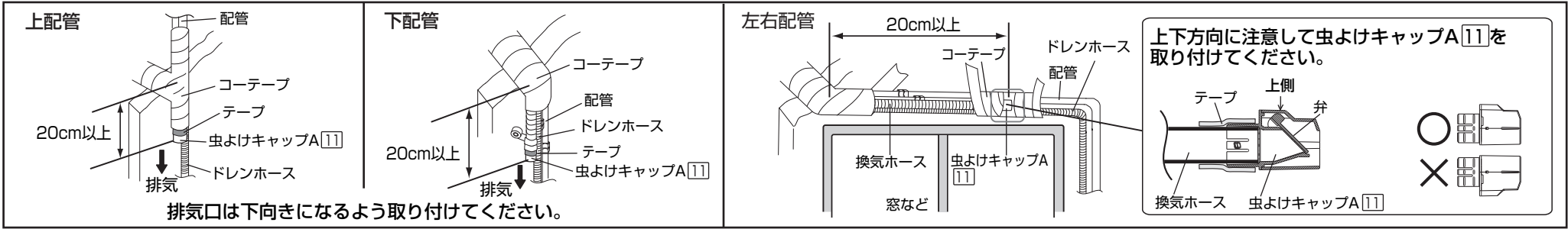
- ・排気口は絶対にふさがらないでください。
- ・コーテープを巻くときやコーナーで曲げるときに、換気ホースの形状がつぶれないように取り扱ってください。

コーテープ仕上げを行う場合

付属の虫よけキャップA **11**を換気ホース先端に取り付ける。

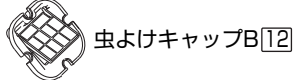


1. 換気ホースを配管穴出口より20cm以上の長さでカットする。
冬期(外気温が低い時)に除湿運転した場合、換気ホース内が結露することがあるので、室外側での換気ホース長さはできるだけ短くしてください。やむをえず長くなる場合は、結露水が滴下しても支障のない位置へ取り付けてください。
2. 虫よけキャップA **11**を換気ホースの先端に取り付け、テープで固定する。
左右配管時は上下方向を正しく取り付けてください。
3. コーテープを巻いて仕上げる。



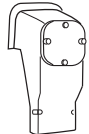
化粧カバー仕上げを行う場合

付属の虫よけキャップB **12**をウォールコーナーに取り付ける。



ウォールコーナー

換気エアコン用(イナバ製「SWK-77N」)を使用します。
※LDWK-70S も使用できます。



ウォールコーナーA

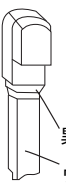
ウォールコーナーB

ウォールコーナーC

ウォールカバー

下記商品が使用できます。必要に応じ異径アダプタも取り付けてください。

メーカー	商品名	品番
イナバ	スリムダクト	SD-77シリーズ SD-66シリーズ※1
イノアック	クリーンダクト	75シリーズ 60シリーズ※1
パナソニック電工	スッキリダクト	60シリーズ※2 80シリーズ※2

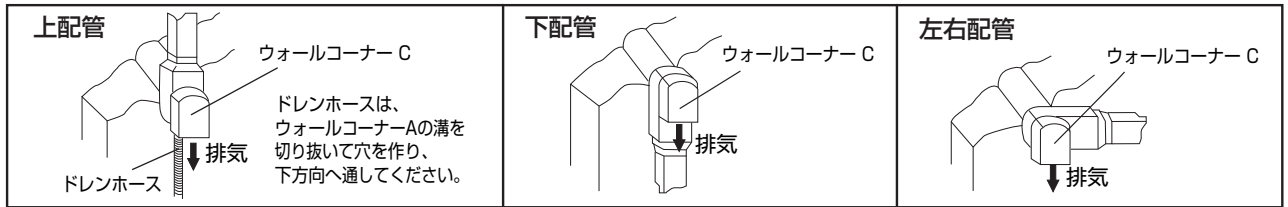
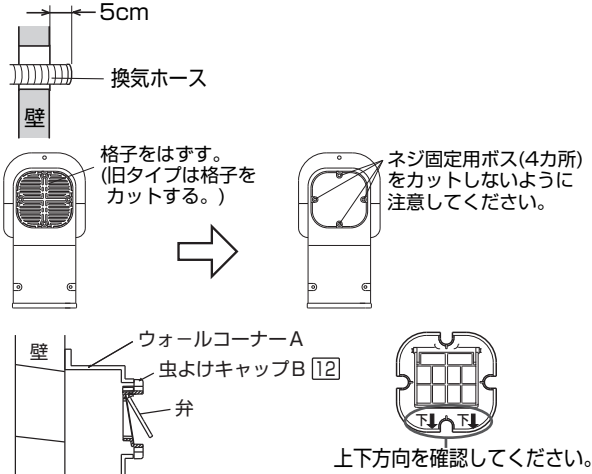


異径アダプタ

※1: イナバ製の「SDI-77-66」が必要です。
※2: パナソニック電工製の「60-140異径アダプタ」が必要です。

部品の手配についてはシャープエンジニアリング(株) もしくはイナバ電工にお問い合わせください。

1. 換気ホースを配管穴に通し、約5cmのところでカットする。
2. ウォールコーナーBを壁に固定する。
3. ウォールコーナーAの格子をはずす。
ネジ固定用ボスが残してください。
4. 虫よけキャップB **12**を、ウォールコーナーAに取り付ける。
上下を確認し、弁が外側へ開くように正しく取り付けてください。
5. 虫よけキャップB **12**を取り付けたウォールコーナーAをウォールコーナーBの上に取り付ける。
6. ウォールコーナーCを取り付ける。
必ず下向きに排気するように取り付けてください。



7. ウォールコーナー取り付け後、コーキング材ですき間を埋める。
シールが不完全な場合、壁内部に雨水が侵入し、腐食等の原因となります。

12 アース工事・漏電しゃ断器

アース工事や漏電しゃ断器の取り付けは、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って行ってください。

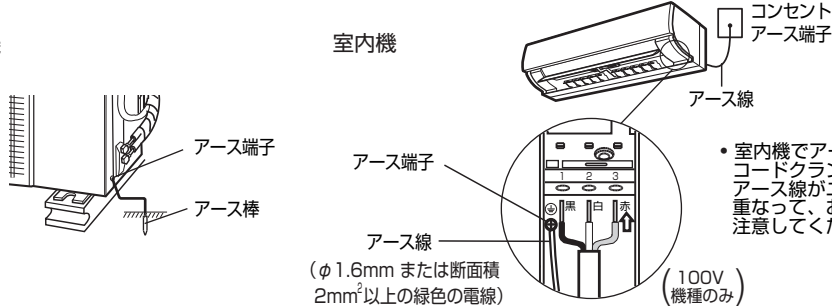
アース工事

必ずアース工事を行ってください。(行っていないと、通電時にエアコン本体に触れたとき、電気を感ずる場合があります。)

- ・単相200V機種の場合、室内電源コードがアース付きになっています。
- ・アース工事は、電気工事士の資格がある方が行ってください。
- ・接地抵抗は100Ω以下にしてください。(漏電しゃ断器を取付けた場合は、500Ω以下にしてください。)
- ・アース棒およびアース線は市販品を使用してください。
- ・室内機または室外機のどちらか一方に対し、アース工事をしてください。
製品に取り付けているアース端子以外のネジは絶対に使用しないでください。
(配管の損傷により、冷媒ガスが漏れる原因となります。)

室外機

室内機



漏電しゃ断器について

- ・万一漏電した際の感電防止のため、漏電しゃ断器を設置してください。
- ・漏電しゃ断器は、定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作高感度高速タイプを使用してください。

部屋形状・据付位置の設定

工事終了後、部屋形状の設定やエアコン据付位置の設定をリモコンで行ってください。(お部屋に合った送風調節をします。)

1. 「メニュー」ボタンでメニュー項目を選ぶ。
2. 「選択」ボタンで選択項目を選ぶ。
3. 本体受信部に向けて「決定」ボタンを押し、確定する。
(詳しくは、取扱説明書の「各種設定」をご覧ください。)

部屋形状の設定 (初期設定は「正方形」)

部屋形状に合わせて風量を調節します。
部屋形状が次のようなときに、設定してください。

タテ長	縦の長さが、横の長さの1.5倍以上のとき
ヨコ長	横の長さが、縦の長さの1.5倍以上のとき

据付位置の設定 (初期設定は「中央」)

風をお部屋の中心に送るよう、送風範囲を調節します。
据付位置が次のようなときに、設定してください。

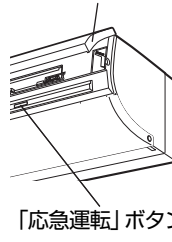
左	エアコン左端と左壁との距離が50cm以内のとき
右	エアコン右端と右壁との距離が50cm以内のとき

13 試運転 (強制冷房運転)

※ 必ず気流パネルを取り付けて試運転を行ってください。
気流パネルを取り付けていないと正しい確認ができません。

1. 本体の「応急運転」ボタン(オープンパネルを開けた右側)を押して、運転を開始する。
2. 運転中に、本体の「応急運転」ボタンを5秒以上押し続ける。
ピッと音がし、運転ランプが点滅して強制冷房運転になります。
3. 暖房の試運転を行うときは、強制冷房運転中にリモコンの「暖房」ボタンを押してください。
4. 試運転を停止するときは「応急運転」ボタンをもう一度押す。

オープンパネル



14 確認

工事終了後、以下の項目を確認してください

- 電源、電圧は規定どおりか。
エアコン運転後、タイマーランプ(橙)が点滅する場合は、コンセントの電圧が正しいか再確認ください。
- 電源コードは、以下の誤った扱いをしていないか。
(切断加工、延長コードの使用、タコ足配線、ステップル等での固定、室内機本体での圧迫等)
- ユニット間配線の挿入、固定は確実か。
途中接続をせず、所定のケーブルを使用しているか。
- アース線の接続は確実か。
- 漏電しゃ断器は設置されているか。
- ドレン排水は確実か。
- 室内機、室外機は確実に据付けられているか。
(石膏ボードに据付板を直付けする場合は、カサ式ボードアンカーの使用は必須です)
- 配管接続は確実か。ガス漏れがないか。
- 2方弁、3方弁は開いているか。
- フィルター掃除手動運転の動作確認で正常に動作したか。
- 同じ部屋にエアコンを2台設置するときは、リモコンの設定を変更してください。
(詳しくは、取扱説明書の「こんなときは」のページをご確認ください。)

ポンプダウン

※冷媒を大気中に放出した場合、地球温暖化に影響があります。

エアコンの取りはずし、または移設時には、ポンプダウンにより冷媒回収を実施してください。

1. 3方弁のサービスポートに圧力計(ゲージマニホールド)を取り付ける。
2. エアコンを強制冷房運転させる。(5～10分間程度)
※暖房運転ではポンプダウンはできません。
3. 2方弁を全閉にする。
4. 圧力計がほぼ0MPa(0kgf/cm²)になるまで運転する。
5. 3方弁を全閉にし、エアコンの運転を停止させる。
6. 圧力計(ゲージマニホールド)を取りはずし、接続配管をはずす。

警告

下記の注意事項を守らないと、コンプレッサーが破裂し周囲に部品が飛び散り、工事作業者自身が重篤なケガをする恐れがあります。

- ・ポンプダウン開始前、冷媒漏れのないことを確認する。
- ・配管折れ等により冷凍サイクル内に冷媒がない場合はポンプダウンをしない。
- ・ポンプダウン作業時には、閉鎖弁を閉じた後、配管をはずす前に圧縮機を停止する。

